

海外サマーコース参加者留学生 報告書		※ 帰国後 15 日以内に提出してください。	
		※ 提出された情報は、海外留学HPに掲載します。(色のついた部分は掲載しません)	
留学先大学名	中国人民大学 (国名: 中華人民共和国)		
参加プログラム名	2011 International Summer School		
プログラム期間	2011 年 7 月 ~ 2011 年 7 月		
学部/学府・年次	生物資源環境科学府	1年次	
参加に要した費用	協定に基づく授業料免除の有無 → 有 無 「有」の場合、免除額を記入してください()		
	航空運賃はいくらかかりましたか? (5~6万円)		
	その他相手先大学に納入した費用を具体的に記入してください(例: 教材費、宿舎費、オプションの見学旅行など) ・登録料(400RMB) ・授業教材費(初級中国語: 58RMB、中級中国語 45RMB) ・観光ツアー費(4回分240RMB) ・寮代(120RMB/日)(※ホテルなら218RMB/日)(古くて相部屋の寮なら35RMB/日) ※留学時1RMB(人民元)=12~13円		
このプログラムを選んだ理由	もともと学部時代の論文で中国・東アジア地域についての研究を行っており、これから成長する市場として中国に興味を持っていた。なので、その研究の延長として中国内の市場調査ができ、さらに中国語の勉強・観光・世界中の学生たちとの交流も一度にできるため、いろいろな面から自分の成長が得られそうなのでこのプログラムに申し込んだ。		
進路の予定	1. 就職 (時期: 4月から / ()月から) 2. 大学院進学 3. その他(具体的に:)		
1. 参加プログラムと大学について			

<p>プログラム(カリキュラム等)の概要について</p>	<p>夏休みの4週間を使って(日本ではまだ夏休みでない)中国の勉強、観光、文化交流を行う。</p> <p>3コース、約60コマの講義の中から最大3コマの講義を選択し、授業を受ける。最大3コマなので履修するのは2コマでも1コマでもよい。</p> <p>参加者は、外国人だけで100人くらいはいたと思われる。中国内の他の大学から来た人も多い。外国人は世界各国から参加者がいるが、日本人を見る目が好意的だったのに驚いた。</p> <p>毎週末には、事務室主催の観光ツアーがある。北京市内や近郊の観光地へみんないっしょにバスで連れて行ってもらえる。飲食代は自己負担であるが、交通費と入場料はタダとなる。行き先は、頤和園、万里の長城、故宮、雑技団であった。友だちみんなと一緒に楽しめるのはいいが、時間が固定されるために、休日は別の日程で過ごしたい人などは参加していなかった。</p>
<p>主催大学のサポート体制について (語学面/勉学面/精神面/住居・生活面など)</p>	<p>到着時、空港から大学までのピックアップサービスあり。</p> <p>学生一人に対して、中国人学生のチューターが付きサポートしてくれる。</p> <p>人民大学では、学生はほぼ全員英語が喋れる印象を受けたので、英会話ができれば様々な学生と交流ができる。逆に、英会話ができればなかなか厳しい。</p> <p>中華人民共和国ではあるが、大学生はおおむね日本に興味をもっており、日本人に対して好意的に接してくれる。授業においても、ティーチングアシスタントが親切にサポートしてくれる。さらに、困ったことがあればサマースクールの事務室も、連絡をすれば何かと話と聞いてくれる。授業も自分に合わなければ途中で変更する事ができる。</p> <p>寮は様々な種類があるが、おおむね綺麗で過ごしやすい。また、売店も学内に多数あり、非常に便利だった。さらに、学内に多くの食堂があり、様々な料理を楽しむことができる。ただ、日本人の口には合わない料理も多くあり、食生活ではなかなか困る事が多かった。</p>
<p>プログラムおよび大学に対する感想</p>	<p>授業料が免除なので、渡航費と滞在費・生活費だけで過ごせるのはとてもいい。</p> <p>中国人だけでなく、日本で生活しているだけではほぼ会う事がないような世界中の国の人と仲良くなれる機会がたくさんあったので、非常に刺激的な一か月だった。</p> <p>中国人民大学は、北京大学、清華大学に次ぎ中国第3位の大学であり、勉強する上で環境は充実した物がそろっている。大学の敷地は箱崎キャンパスより少し大きい程度であり、学内は新しい建物も多く、さらに新しいものがどんどん建設されている。西門と東門それぞれ出てすぐにバス停があり、歩いて数分の所に地下鉄の駅もあるので北京市内各地へのアクセスもしやすい。</p> <p>ちなみに夏休み中なので、本来の中国人の学生の多くは帰省していたりする。</p>

<p>同じプログラムを希望する人たちへのアドバイス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との会話は基本的に英語なので、英会話はできた方がいい。 授業中に先生が使う英語は簡単なので困ることはない。(中国語クラス) ・友達との連絡や交流のために、gmail や facebook のアカウントがあると便利。ただ中華人民共和国では facebook をはじめ多くのサイトにアクセスできないので、その点は注意が必要。 ・覚えやすいニックネームや、英名を持っているとよい。さらに英名やアドレスを載せた名刺があるとよい。 ・日本人と分かると、マンガ、アニメ、格闘技の事を話して来る人が少なからずいるので、少しでもいいので、雑誌「少年ジャンプ」の漫画や、「ドラえもん」や「クレヨンしんちゃん」等の子供アニメの知識があると何か満足してもらえる。お土産があるとよい。 ・ビザの期間はプログラム期間の4週間以上あるので(6ヶ月)、プログラムが終了したら、そのまま中国内の他の地方も観光しにいくのも楽しい。(ただし、飛行機が往復チケットではなく、片道チケットのみになってしまい渡航費用がかさむ可能性がある。)
<p>2. 事前手続き(ビザ申請などが必要であった場合)</p>	
<p>ビザの種類</p>	<p>F visa</p>
<p>ビザ申請先</p>	<p>駐福岡中国総領事館</p>
<p>必要書類、手続き方法</p>	<p>プログラムの手続き: 大学 HP 上で登録申請をし、プリントアウトした登録用紙と写真4枚を九大事務室経由で送付。登録料を送金して2、3週間すると受け入れ通知が送られてくるので、出国までにビザの申請を済ませる。</p> <p>ビザの手続き: パスポート・留学先大学から送られてくる受け入れ通知とそのコピー・申請書(領事館で記入)をそろえて、平日午前9時から11時までの2時間内に手続きをしに行く。 短期留学なので健康診断書は要らない。</p>
<p>手続きに要した時間</p>	<p>プログラム:一ヶ月 ビザ:4日</p>
<p>その他必要な事前手続きがあれば記入してください</p>	<p>登録料400RMB を日本から中国まで電子送金する必要あり。</p> <p>プログラムは、九大では授業期間中の6月末から始まるので、講義をとっている人は各先生方に残りの授業は出席できないことと、試験以外の方法(後日レポート提出など)で単位を出してもらえるよう懇願しに行く必要がある。</p>
<p>3. 日常生活</p>	
<p>日常生活の概要、感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、一限目は朝8時から。一コマ90分。休み時間は30分。 1授業あたり週に4限程度。授業は基本的に英語。 他の参加者との会話も基本的に英語。しかし現地の町の人や、店員さんには英語はほとんど通じない。簡単な中国語の日常会話は知っておいた方がいい。 ・インターネットの速度はあまり速くない。 規制が厳しいので、中国外のサイトにはアクセスできないことがしばしばある。 ・トイレに紙がないし、使った後流すときは注意が必要。町のトイレは恐ろしく汚い。 ・人民大学のある北京北西部は多くの大学が存在し、学生の町となっているので治安もよく、食事や買い物も困らない。

生活費(全期間)及びおおよその内訳	一日30元～。 学食8～15元。外食20元～40元。酒を飲んだり、クラブに行くと100元くらい。 ペットボトル500ml3～5元。パン3～5元。 地下鉄全線一律2元。バス初乗り約1元。観光地入場料20～30元。
日本から持参した方がよいもの(PCや変圧器等の要不要も)	・パソコン、カメラは必須(変圧器不要)。 ・歩行に適した靴、サンダル、暑さに備えた服 ・地球の歩き方 ・日本での写真(友人と話すときに便利) ・英語力、もしくは現地で勉強したくなった時のための英語の参考書
日常生活(治安対策を含め)に関するアドバイス	・北京は比較的治安は良い。海外旅行時の最低限の防犯対策をしておけばほぼ問題ない。 ・物盗りにあうよりも自分の置き忘れによる紛失の方がはるかに多い。 ・天気は晴れが多いが、夕立など一時的に雨が降ることも多いので折り畳み傘を持って出かけた方がよい。 ・日差しが強く暑いので日射対策、暑さ対策を十分に行う。 ・歩くことも多いので、動きやすく履きなれた靴があるとよい。 ・日用品なら日本から準備していなくても、大抵の物は現地で揃えることができる。
お金の管理や受け取り(銀行口座開設や海外送金、またはクレジットカード持参など)について、貴方の留学先国で最も適当な方法を教えてください。	必要のないカード・会員証類は、無した時の手続きが面倒なのですべて日本に置いていく。 海外送金は、現地のATMから引き下ろせるクレジットカードがあると便利。かつ、ネットで利用履歴や残高が確認できると理想的。(e-bankなど) 現金は、一か所にまとめて管理しない。できれば財布も持ちあるかない。普段散歩だけならポケットに二、三百元程度と交通カードを入れてさえいればいい。

4. 宿舎、生活環境

宿舎の種類(○印をつける)	・大学の寮 ・ホテル ・その他()
立地	寮は教室棟からは少し遠い。(歩いて15分) 東門の近く、多くの留学生が寮に泊まるので寮がおすすめである。
伝えたい地域情報、生活情報	・生水は飲めない。飯がほぼ口に合わない可能性大。 ・プログラム期間中はずっと下痢であった。 ・公共交通はとても安く使えるし、バス・地下鉄は一つのカードで乗ることができる。 ・日中は、とにかく暑いので、女性は日傘、男性は半ズボンがあると良い。(現地でも安く買える) ・一部の店では反日感情がすごいので、覚悟が必要。 ・あとは書籍「地球の歩き方」を参考に。

5. その他の特記事項

世界中の多くの人と会い、多くの場所に訪れるので、とても刺激的なプログラムである。
この期間を有意義に過ごすためにも、英語が非常に重要になる。
後、町の人々の日本人のイメージ＝金持ち、押しに弱い、なので非常になめられる事が多い。
買い物の際、非常に押しが強かったり、しつこくふっかけてくる事が多かった、そのような不当な圧力に屈しないように。